

令和4年度学校経営報告

東京都立杉並工業高等学校
校長 高野 学

1 今年度目標達成に向けた取組みの成果と課題

新たな日常の中、教育活動は感染症対策を続けながらもほぼ正常な形で行う事ができた。コロナ禍の2年間で人と人との繋がりが希薄になったことの影響か、人間関係を起因とする問題がここ数年と比べると多かった。途絶えていた学校行事なども再開したが、ブランクで失ったものもあり準備等が難しかった。令和5年度に校名が工科高校に変わり、令和6年度からIT環境科に改編されることが決定し、その実施に向けて動き出した。

(1) 今年度における取組目標

コロナ禍における安全対策を最優先に行いながら、学校行事や部活動を工夫して行い、生徒の健全育成を図るとともに、学習支援システムを活用するなど学習の機会を確保しながら学力向上を目指す。そして、都の工業高校改革を見据えた教育課程およびシラバスの改善を進め、生徒の力を伸ばし、希望する進路が実現できる学校を目指す。

(2) 達成に向けた具体的方策の成果と課題

具体的方策	成果と課題
ア 学習指導	
① グランドデザインに基づいた各教科シラバスを作成し、「AL的手法」「ルーブリックを活用した評価」を行い、指導と評価が一体化した授業を実践する。	1年生で指導と評価の一体化を目指した観点別評価を実施。評価にばらつきがみられる。今後実践を繰り返すことで評価項目の精度を上げ教育効果を高める。授業のねらいを授業冒頭に明確にし授業最後に振り返りを行う授業形態が定着しつつある。
② PBLを授業に積極的に導入し、生徒の探究する力、学び続ける力を育成する。そして総合的な探究の時間の代替である課題研究を本校の教育活動の集大成として位置付け指導する。	東京交通会館との産学連携事業は一区切りつけ、新たな連携先を模索する。単なるものを作って終わりの課題研究から人の役に立つより良いものを目指したものづくり探究活動を目指す。
③ PBLを進めるため、他校種・企業との連携や外部講師の招聘などを積極的に行う。	教員対象の機器説明会を、7月に機械科、12月に電子科、3月に理工環境科が行った。
④ 一人一台端末を有効に活用し、効果的・効率的な授業を展開する。	ほぼすべての授業で端末を使った授業が行われている。端末の保管の仕方、破損、充電など課題がある。
⑤ 杉工寺子屋を組織的に取り組み、補習補講を行い、中学既習事項を含めた基礎的な知識の定着を図る。	各定期考査前に寺子屋を開講し、意欲的な生徒及び必要な生徒への補習を行った。学習に課題のある生徒の底上げに一定の成果があった。
⑥ 生徒にとって有用な資格・検定を整理し、取得を目指す取組みを推進する。	電気工事士6名合格(昨年10名) 危険物取扱者丙種16名合格(昨年41名) 工事担任者2名。
イ 進路指導	
① 「進路の手引き」を使い3年間を見通した系統的な進路指導を行う。	進路の手引きを1年生から配布し3年間を見通しをもってキャリアデザインできる体制がつけられた。
② 進路調査や模擬試験等を行い、生徒の能力や適性を把握し、一人一人の適性に考慮したきめ細かな進路指導を行う。	就職希望者学校あつせん55名、公務員1名、縁故7名、就職希望者100%内定。進学希望者大学短大35名合格。進学準備2名。就職準備2名 卒業生102名。

③インターンシップを2年生で実施し、職業観を形成させ進路選択に結び付ける。	5日間で実施。企業会社への事後アンケートでは本校の生徒への評価が高く、生徒の事後アンケートではほとんどの生徒が有意義であったことを記した。次年度も同様の形式で実施する。
④専門教科における実習や教科「人間と社会」体験活動、そして学校行事、部活動等を通じて、自己理解・他者理解を深め、思いやりの心、社会性を育成し、自己実現を目指す。	「人間と社会」はコロナ禍で授業内容を工夫せざるをえなかった。教務部が管理することを明確にし、継続的・統一的な内容で指導できる体制を作ることが課題である。
ウ 生活指導	
①登校時やホームルーム、教科指導など、様々な場面で、時間を意識して行動すること、身だしなみや挨拶に関わる指導などを徹底し、礼儀や規律、規範に関わる意識を高める。	生活指導部による朝の立ち番指導は通年行った。コロナ禍による体温チェックも引き続き登校時に生活指導部が主体に行った。身だしなみに大きな乱れは無く、落ち着いた環境が保たれている。
②保護者との連携を図り、遅刻防止を含めた基本的な生活習慣の改善に向けた指導を行う。	通常登校に戻った影響か、1日当たりのクラス平均遅刻者数は、0.7と昨年の0.5を上回った。特定の生徒によるものだが、保護者との連携が必要である。
③「いじめ防止基本方針」等に基づき、いじめや暴力は絶対にしない、許さない指導を徹底するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的に開催し、いじめの未然防止に向けた取組や早期発見のための情報共有の工夫を図る。	1学期、いじめ対策委員会においていじめと認識し指導を行った。以前からいじめにつながる芽があったとの報告から、教員の指導力の向上、未然防止の取組みの充実を図る必要がある。
④授業やセーフティ教室等において、ネットリテラシー、情報モラルに関する指導を徹底する。	セーフティ教室を実施。教科「工業情報数理」で指導を行った。SNSの使用による大きなトラブルはなかった。
エ 特別活動・部活動指導	
①コロナ禍で制限がかかる中、できることを工夫しながら特別活動を実践し、心身の健康、体力の向上を目指す。	体育祭は全校で規模を縮小して実施。文化祭は保護者のみ公開で実施。5月の3年生修学旅行実施。 2月マラソン大会は3年ぶりに実施。日常が戻りつつある。
②部活動指導方針に基づき、生徒が主体的に取り組む活躍する機会を作り出す。	感染症が広がった2年間で部活動の活動が低迷し、部活動加入者は減少傾向にある。柔道部関東大会出場。電子工作部全国大会出場と実績を残した。
③「2020オリンピック・パラリンピック教育レガシー」実施方針に基づき、日本の伝統文化の理解や国際感覚を養う等、国際理解教育の充実を図る。	特に、取り組むことがなかった。
④行事や集会等における校歌斉唱、生徒による挨拶活動、地域への貢献や奉仕活動など、本校の伝統的な取組を一層充実させ、生徒が誇りをもてる学校づくりを推進する。	コロナ禍で、歌を歌う事も出来ず、生徒会活動も低調となり、目的を達成することができなかった。 日常的な挨拶が習慣化されている生徒が多数。
オ 保健指導	
①スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実、学校医等と連携した健康教育の推進、保健委員会の活動の活性化などを図り、自殺対策に資する教育の推進、発達	ケース会議を開催しなかった。学年ごとにそれぞれが主体的に動き対応している。生徒数が少ないため現在では対応できている。今後は定期的にケース会議等を開催できる体制を作っていく。スクールカウンセラーによる校内研修「発達障害の理解」

障害等の特別な支援が必要な生徒の心の健康の増進や学ぶ意欲の向上を図る。	を1回実施した。
②感染症対策を施し環境整備に努め、清掃活動を徹底し、清潔で明るい学習環境をつくる。	校内消毒は環境整備員が行っている。施設の老朽化による改修・修理が課題である。
③特別教育支援コーディネータを中心とした教育相談体制を充実させ、特別な支援を必要とする生徒への支援体制を構築し中途退学者の減少を目指す。	中途退学者の数は昨年3人から7人と増えた。学校が通常通りの教育活動が行えるようになったが、適応できない生徒も出てきている。2年間人間関係が希薄になっていたことも要因の一つとして考えられる。
カ 募集・広報活動	
①HPの運用、外掲掲示板の活用、地域小学校・中学校との連携など広報活動・募集活動を充実させる。	HPの更新回数は、昨年175回が今年度は125回と減少。ツイッターを含め情報発信は充実した。学校見学会、8月4回実施。学校説明会、秋3回実施。体験入学、秋3回実施。
②ものづくりの面白さを子供たちに伝える活動など、地域の小・中学校との連携事業の内容をさらに充実させ、地域社会に貢献し、信頼される学校づくりを推進する。	7月に杉並区立三谷小学校で6年生：本校へ来校してものづくり体験、5年生：電子科教員出前授業を実施。次年度は6月に行う予定。
③学校案内、ポスター、パワーポイントによる学校紹介をカスタマイズする。	学校案内・ポスターを刷新した。令和6年度に向けたリーフレットを作成。
キ 学校経営・組織体制	
①学科改編に向けて積極的に先進校の学校視察・授業見学、有識者の招聘を行う。	8月愛知県、福井県へ先進校視察を実施。研究授業に参加する教員は増えている。オンライン授業を全ての教員が参加して実施。新たな授業形態への取組みが進んでいる。
②DXを進め業務の質を高めるとともに、ICT環境を最大限活用して生徒の学びを保証する。	庶務事務システム、校務支援システム、採点システムの運用を促す校内研修を実施。
③日常の業務を通じて教育公務員としてのあり方を自覚するとともに、研修会を実施し教員相互でミスが起こらない職場風土をつくり、服務事故防止に努める。	定期的に管理職による事故防止研修を実施。適宜、注意喚起を行っている。服務事故0件
④体罰・暴力行為・暴言等の根絶を図る。体罰に関する認識を教職員・生徒・保護者が共通理解し、体罰はしない、させない、許さない校内風土の醸成を図る。	教職員の服務に関する意識は高い。部活動指導方針に、体罰にかかわる事項を追記させている。教職員は定期的な研修等を通じて理解を深めている。
⑤管理職は所属職員のライフワークバランスに気を配り、業務内容の見直しを進め、勤務時間の削減を目指す。	コロナ禍で業務の内容が変化したことで超過勤務は激減した。在宅勤務のルール作りなどの課題が残る。
⑥防災体制を整備し、非常時に備えるとともに、関係機関や地域と連携し実践的な防災教育を推進する。各種防災訓練を充実させ、生徒の防災意識の向上を図るとともに、自助・共助のための実践的な知識・技能の習得を目指す。	水道局と連携した1年生防災活動を実施。防災訓練を年4回実施。
⑦創立60周年行事に向けた準備をスタートさせる。	委員会を立ち上げた。令和6年3月実施で決定。

(3) 数値目標と達成度

	項 目	数値目標	実績値	
			昨年度	今年度
学習指導	杉工寺子屋は学習サポートに役立っている	80%以上	82%	80%
	平日授業以外学習時間1時間以上（朝・放課後補習補講を含む）	10%以上	15%	11%
	資格取得等の指導の充実、 国家資格取得者数	100人以上	87人	56人
	資格取得等の指導の充実、 認定資格取得者・検定合格者数	300人以上	280人	293人
進路指導	キャリア教育の充実、インターンシップの実施	2学年で実施	5日間	5日間
	就職指導の充実、就職希望者内定率	100%	100%	100%
	学校評価アンケート 生徒 進路指導満足度	80%以上	91%	93%
	進学希望者の大学・専門学校進学率	95%以上	98%	95%
生活指導・保健指導	遅刻者数（1日当たりクラス平均数）	前年度実績以下	0.55人	0.7人
	教育育相談の充実、スクールカウンセラーによる校内研修	2回以上	1回	1回
	暴力行為、いじめ件数（教育委員会届け出数）	0件	0件	1件
	特別な支援を必要とする生徒に関わる会議	年5回以上	0回	0回
	中途退学者の数（転学を含まない）	10名以下	2人	7人
部活動指導	学校評価アンケート 生徒 学校行事満足度	80%以上	82%	79%
	部活動加入率	70%以上	54%	68%
	地域連携活動	5回以上	0回	2回
募集・広報活動	学校説明会、見学会参加者数延べ数	600人以上	340人	350人
	H P 更新回数	300回以上	165回	125回
	学力選抜応募倍率	1.1倍以上	0.41倍	0.28倍
	推薦選抜応募倍率	1.5倍以上	0.57倍	0.73倍
組織・体制運営	学校評価アンケート 生徒 本校に入学して良かったと思う	80%以上	85%	80%
	学校評価アンケート 保護者 本校に入学させて良かったと思う	80%以上	91%	85%

